

第3期穴粟市地域福祉計画施策検証シート

※網掛け部分（「R3年度の取組最終実績」、「R4年度の取組(※中間報告)」、「Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等）※R4年度回答」）の3つの欄を新たに記入しております。

活動指標に対する評価等(1)

主要な施策	基本目標 1 基本施策(1)	地域福祉を進める担い手を育てます 福祉学習を推進し、地域福祉意識を普及啓発します
活動指標	市の職員による福祉に関する出前講座の実施数	
関係機関	健康福祉部(福祉相談課)	
I. 具体的な取組内容、目標の達成度等		
(活動指標) H30年度：8回 → R6年度：増加		
(R3年度の取組) ※昨年度中間報告		
(福祉相談課) 令和4年1月13日山崎民生委員児童委員の地域福祉部会の13名を対象に実施。令和4年2月5日杉ヶ瀬自治会、令和4年3月8日新潮会を対象に計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大により中止した。		
(R3年度の取組最終実績) ※昨年度中間報告も含めた最終実績報告(中間報告と変更・修正なければそのままコピーで可)		
(福祉相談課) 出前講座の実施(1回) ①令和4年1月13日：山崎民生委員児童委員(地域福祉部会) 13名 ②令和4年2月5日(コロナで中止)：杉ヶ瀬自治会 ③令和4年3月8日(コロナで中止)：新潮会		
Ⅱ. 課題(めざす姿と現状の差等) ※(参考) R3年度回答内容		
(福祉相談課) 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、参集型の講座開催が難しくなっている。そのような中、Web開催等、多様な方法で出前講座を実施し市民の地域福祉意識を普及啓発していく。		
(R4年度の取組) ※中間報告		
健康福祉部の出前講座実施回数 計6回実施 (福祉相談課) ①令和4年5月28日：山崎地区老人クラブ(66名)『フレイル予防で健康寿命を延ばそう』 ②令和4年7月12日：新潮会(20名)『フレイル予防で健康寿命を延ばそう』 ③令和4年10月20日：田井福城会老人クラブ(29名)『フレイル予防で健康寿命を延ばそう』 ④令和5年2月18日：山崎地区老人クラブ(66名)『認知症について』 (保健福祉課) 発酵教室『にわの糞』を使ったキムチづくり ①R4.12.17(土)：健生会(12人) いちのびあ大ホール ②R5.1.13(金)：穴粟市消費者協会(8人) 北庁舎2F調理室		
Ⅱ. 課題(めざす姿と現状の差等) ※R4年度回答		
(福祉相談課) 出前講座を実施し市民に対し、学ぶ機会を提供し、地域福祉意識を普及啓発していく。		

第3期穴粟市地域福祉計画施策検証シート

※網掛け部分（「R3年度の取組最終実績」、「R4年度の取組(※中間報告)」、「Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等）※R4年度回答」）の3つの欄を新たに記入しております。

活動指標に対する評価等(2)

主要な施策	基本目標 1 基本施策(2)	地域福祉を進める担い手を育てます 市民活動・ボランティアへの参加を促進します
活動指標	「しそ元気げんき大作戦事業」の実施団体数	
関係機関	まちづくり推進課	
I. 具体的な取組内容、目標の達成度等		
(活動指標) H30年度：12団体 → R6年度：増加		
(R3年度の取組) ※昨年度中間報告		
新規採択が4件（うち1件は、事業を実施するための組織の立ち上げや調査研究に取り組むスタートアップ事業）、継続事業の採択が6件あり、それぞれ支援を行った。		
(R3年度の取組最終実績) ※昨年度中間報告も含めた最終実績報告（中間報告と変更・修正なければそのままコピーで可）		
新規採択が4件（うち1件は、事業を実施するための組織の立ち上げや調査研究に取り組むスタートアップ事業）、継続事業の採択が4件あり、それぞれ支援を行った。中間報告では継続事業6件であったが、新型コロナウイルス感染拡大により事業実施が困難となり2件の取下げがあった。		
Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等）※(参考) R3年度回答内容		
活動指標でH30年度を12団体としているが、新規を含め全体で10団体の申請にとどまった。新型コロナウイルスの影響により、それぞれ活動ができていく状況ではあるが、R2年度から補助メニューとして新たに追加した「スタートアップ事業」の啓発に努め、新規取組み団体の増加に取り組む必要がある。		
(R4年度の取組) ※中間報告		
新規採択が1件、継続事業の採択が7件あり、それぞれ支援を行っている。		
Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等）※R4年度回答		
令和4年度も新型コロナウイルスの影響により、活動ができていく状況が続いたが、新規の相談もあることから、スタートアップ事業の活用を含めて新規取組み団体の掘り起こしに取り組む必要がある。		

第3期穴粟市地域福祉計画施策検証シート

※網掛け部分（「R3年度の取組最終実績」、「R4年度の取組(※中間報告)」、「Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等）※R4年度回答」）の3つの欄を新たに記入しております。

活動指標に対する評価等(3)

	基本目標 1 基本施策(3)	地域福祉を進める担い手を育てます 地域福祉を担う人材を発掘・育成します
活動指標	認知症サポーター養成講座受講者数（ステップアップ講座を除く）	
関係機関	福祉相談課	
I. 具体的な取組内容、目標の達成度等		
(活動指標) H30年度：458人 → R6年度：500人		
(R3年度の取組) ※昨年度中間報告		
認知症を理解し、地域で暮らす認知症高齢者やその家族の支援者を増やすことを目的に、認知症サポーター養成講座を年間20回開催し、受講者500名を目標としていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止により、7回開催、111人の参加となった（令和4年1月末現在）。小学生、中学生を対象とした講座では、対面での話ができず、事前に撮影した動画視聴による講座となった。		
(R3年度の取組最終実績) ※昨年度中間報告も含めた最終実績報告（中間報告と変更・修正なければそのままコピーで可）		
認知症を理解し、地域で暮らす認知症高齢者やその家族の支援者を増やすことを目的に、認知症サポーター養成講座を年間20回開催し、受講者500名を目標としていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止により、8回開催、121人の参加となった。小学生、中学生を対象とした講座では、対面での話ができず、事前に撮影した動画視聴による講座となった。		
Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等） ※(参考) R3年度回答内容		
後期高齢者が増える中、認知症の方が増えている。今後も認知症の方が安心して住み慣れた地域で生活していくためには、地域の方や企業等に対し認知症を理解し、認知症の方やその家族の支援者を増やしていくために認知症サポーター養成講座を年間20回開催、500名のサポーターを養成目標としているが、開催方法については、Web配信等多様な方法での開催を検討していく。		
(R4年度の取組) ※中間報告		
認知症を理解し、地域で暮らす認知症高齢者やその家族の支援者を増やすことを目的に、認知症サポーター養成講座を12回開催、204人の参加となった。対象者としては、社会福祉協議会職員や金融機関職員、小学生、中学生、高校生、教職員、関電サービス職員、オレンジカフェ職員と幅広い年齢の方を対象に実施した。		
Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等） ※R4年度回答		
後期高齢者が増える中、認知症の方が増えている。今後も認知症の方が安心して住み慣れた地域で生活していくためには、地域の方や企業等に対し認知症を理解し、認知症の方やその家族の支援者を増やしていくために認知症サポーター養成講座を年間20回開催、500名のサポーターを養成していく。		

第3期穴粟市地域福祉計画施策検証シート

※網掛け部分（「R3年度の取組最終実績」、「R4年度の取組(※中間報告)」、「Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等）※R4年度回答」）の3つの欄を新たに記入しております。

活動指標に対する評価等(4)

主要な施策	基本目標 1 基本施策(3)	地域福祉を進める担い手を育てます 地域福祉を担う人材を発掘・育成します
活動指標	認知症サポーター登録者数（延べ数）	
関係機関	福祉相談課	
I. 具体的な取組内容、目標の達成度等		
(活動指標) H30年度：244人 → R6年度：544人		
(R3年度の取組) ※昨年度中間報告 認知症サポーター養成講座受講者に対し、認知症サポーターの登録者を確認している。令和3年度新規登録者20人、登録者数330人（令和4年1月末現在）。		
(R3年度の取組最終実績) ※昨年度中間報告も含めた最終実績報告（中間報告と変更・修正なければそのままコピーで可） 認知症サポーター養成講座受講者に対し、認知症サポーターの登録者を確認している。令和3年度新規登録者23人、登録者数333人。		
II. 課題（めざす姿と現状の差等） ※(参考) R3年度回答内容 認知症の方が安心して住み慣れた地域で生活していくためには、認知症を理解し認知症の方やその家族の支援者を増やす認知症サポーター養成講座受講者の中から認知症サポーターへの登録を増やしているが、登録者がどの程度、認知症の方への支援をしているか把握できていない。今後、サポーター登録者の活動状況を把握し、支援ができるように継続的な働きかけが必要である。 年間、50名の登録者をめざす。		
(R4年度の取組) ※中間報告 認知症サポーター養成講座受講者に対し、認知症サポーターの登録者を確認している。令和4年度新規登録者4人、登録者数337人。		
II. 課題（めざす姿と現状の差等） ※R4年度回答 認知症の方が安心して住み慣れた地域で生活していくためには、認知症を理解し認知症の方やその家族の支援者を増やす認知症サポーター養成講座受講者の中から認知症サポーターへの登録を増やしているが、登録者がどの程度、認知症の方への支援をしているか把握できていない。今後、サポーター登録者の活動状況を把握し、支援ができるように継続的な働きかけが必要である。年間、50名の登録者をめざす。 認知症サポーター登録者に対し、更に認知症への理解を深め、支援ができるようにステップアップ講座を実施した。		

第3期穴粟市地域福祉計画施策検証シート

※網掛け部分（「R3年度の取組最終実績」、「R4年度の取組(※中間報告)」、「Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等）※R4年度回答」）の3つの欄を新たに記入しております。

活動指標に対する評価等(5)

主要な施策	基本目標 1 基本施策(3)	地域福祉を進める担い手を育てます 地域福祉を担う人材を発掘・育成します
活動指標	生活支援サポーター養成講座受講者数（延べ数）	
関係機関	福祉相談課	
I. 具体的な取組内容、目標の達成度等		
(活動指標) H30年度：11人 → R6年度：17人		
(R3年度の取組) ※昨年度中間報告		
定住自立圏構想連携事業として、毎年たつの市、穴粟市、上郡町、佐用町が合同で開催している。 令和3年度は11月17日、18日に開催し、参加申込み人数6名。研修修了者6名。 修了者のうち2名は現職であり、残り4名も今後ボランティアや就業を予定している。		
(R3年度の取組最終実績) ※昨年度中間報告も含めた最終実績報告（中間報告と変更・修正なければそのままコピーで可）		
定住自立圏構想連携事業として、毎年たつの市、穴粟市、上郡町、佐用町が合同で開催している。 令和3年度は11月17日、18日に開催し、参加申込み人数6名。研修修了者6名。 修了者のうち2名は現職であり、残り4名も今後ボランティアや就業を予定している。		
Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等） ※(参考) R3年度回答内容		
高齢者の生活・介護支援サービスを行う生活支援サポーターを養成することにより、高齢者が住みなれた地域での自立した生活を支えることを目的として開催。 受講対象者として、「研修終了後に圏域内(たつの市、穴粟市、上郡町、佐用町)の事業所に従事者として就業を希望する人」としているが、高齢者の生活支援に興味のある人、福祉や介護に関する知識及び技術を習得し、今後の在宅介護に備えておきたいと希望する人など範囲を広げ、今後も人材育成に取り組みたい。		
(R4年度の取組) ※中間報告		
今年度も開催予定であったが、申込み人数が定員に満たず開催は中止となった。		
Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等） ※R4年度回答		
高齢者の生活・介護支援サービスを行う生活支援サポーターを養成することにより、高齢者が住みなれた地域での自立した生活を支えることを目的として開催しているが、応募者が少ないことや受け皿が地域にないことが課題として挙げられる。人材育成という視点から今後の開催方法や頻度について検討が必要である。		

第3期穴粟市地域福祉計画施策検証シート

※網掛け部分（「R3年度の取組最終実績」、「R4年度の取組(※中間報告)」、「Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等）※R4年度回答」）の3つの欄を新たに記入しております。

活動指標に対する評価等(6)

主要な施策	基本目標 1 基本施策(3)	地域福祉を進める担い手を育てます 地域福祉を担う人材を発掘・育成します
活動指標	自殺対策ゲートキーパー研修受講者数（延べ数）	
関係機関	保健福祉課	
I. 具体的な取組内容、目標の達成度等		
(活動指標) H30年度：0人 → H6年度：150人		
(R3年度の取組) ※昨年度中間報告		
ゲートキーパー研修(民生委員・児童医院) 95人 ゲートキーパー研修(支援者)21人 ゲートキーパー研修(職員)42人		
(R3年度の取組最終実績) ※昨年度中間報告も含めた最終実績報告（中間報告と変更・修正なければそのままコピーで可）		
ゲートキーパー研修(民生委員児童委員) 95人 ゲートキーパー研修(支援者)21人 ゲートキーパー研修(職員)42人		
Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等）※(参考) R3年度回答内容		
今年度、民生委員・児童委員対象の研修会を2カ所実施したことで、全地区の実施が出来た。支援者や職員対象のゲートキーパー研修会を受講することで「自殺対策の理解が深まった」と回答した方も多く、気づきや支援への理解が得られている。一方で「1回の研修で理解できることではない」といった意見もあり、時間と内容の調整、継続的な学びの場も必要である。		
(R4年度の取組) ※中間報告		
ゲートキーパー研修(民生委員児童委員、協力員) 99人 ゲートキーパー研修(職員)24人		
Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等）※R4年度回答		
民生委員児童委員対象研修会は昨年度をもって全地区で実施できたため、今後定期的実施することで自殺対策、ゲートキーパーの考え方の地域への定着を目指したい。 穴粟市は、自殺を社会の問題と捉える認識の低さがうかがえるため、地域全体の意識を変えていくため、市民・職員等への研修も継続していく必要がある。		

第3期穴粟市地域福祉計画施策検証シート

※網掛け部分（「R3年度の取組最終実績」、「R4年度の取組(※中間報告)」、「Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等）※R4年度回答」）の3つの欄を新たに記入しております。

活動指標に対する評価等(7)

主要な施策	基本目標 1 基本施策(4)	地域福祉を進める担い手を育てます 社会福祉法人による公益的活動を支援します
活動指標	市ホームページ等における社会福祉法人の地域における公益的な取り組みの紹介	
関係機関	社会福祉課	
I. 具体的な取組内容、目標の達成度等		
(活動指標) H30年度：未掲載 → R6年度：掲載		
(R3年度の取組) ※昨年度中間報告 取組ができなかった。(未掲載)		
(R3年度の取組最終実績) ※昨年度中間報告も含めた最終実績報告(中間報告と変更・修正なければそのままコピーで可) 取組ができなかった。(未掲載)		
Ⅱ. 課題(めざす姿と現状の差等) ※(参考) R3年度回答内容 評価(8)と併せて実施することが望ましいと考える。		
(R4年度の取組) ※中間報告 市内所轄法人について、公益的な取り組みの有無及び取組内容について把握を行う。		
Ⅱ. 課題(めざす姿と現状の差等) ※R4年度回答 公益事業の取り組みについては、所轄法人において認識や考え方に温度差があるため、行政と法人間が相互に連携していくことで公益的取り組みを進めていく必要がある。		

第3期宍粟市地域福祉計画施策検証シート

※網掛け部分（「R3年度の取組最終実績」、「R4年度の取組(※中間報告)」、「Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等）※R4年度回答」）の3つの欄を新たに記入しております。

活動指標に対する評価等(8)

主要な施策	基本目標 1 基本施策(4)	地域福祉を進める担い手を育てます 社会福祉法人による公益的活動を支援します
活動指標	社会福祉法人との公益的な取り組み内容にかかる協議の実施	
関係機関	社会福祉課	
I. 具体的な取組内容、目標の達成度等		
(活動指標) H30年度：未実施 → R6年度：実施		
(R3年度の取組) ※昨年度中間報告		
社会福祉法人連絡協議会（事務局：社会福祉協議会）は発足したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、会議開催にまで至らなかった。 令和4年3月にWeb会議を開催予定		
(R3年度の取組最終実績) ※昨年度中間報告も含めた最終実績報告（中間報告と変更・修正なければそのままコピーで可）		
令和4年3月24日に宍粟市社会福祉法人連絡協議会に出席（社協主催）：Web会議		
Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等） ※(参考) R3年度回答内容		
社会福祉課（地域福祉担当）の協議会への参加等を継続し、社会福祉法人の行う公益事業の把握を行う。また、その公益活動への支援の在り方などについて関係機関と協議を行う必要があると考える。		
(R4年度の取組) ※中間報告		
令和4年11月29日 宍粟市社会福祉法人連絡協議会に参加		
Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等） ※R4年度回答		
R3年度に引き続き、所轄法人に対して公益事業についても取り組みについて依頼していくとともに、連絡協議会をとおして法人間の情報共有や関係系の強化を行っていく必要がある。		

第3期穴粟市地域福祉計画施策検証シート

※網掛け部分（「R3年度の取組最終実績」、「R4年度の取組(※中間報告)」、「Ⅱ. 課題(めざす姿と現状の差等)※R4年度回答」)の3つの欄を新たに記入しております。

活動指標に対する評価等(9)

主要な施策	基本目標 2 基本施策(1)	みんなで支え合う仕組みをつくり 地域住民等が集う場・拠点づくりを進めます
活動指標	「通いの場」登録者数	
関係機関	福祉相談課	
I. 具体的な取組内容、目標の達成度等		
(活動指標) H30年度：1,975人 → R6年度：2,250人		
(R3年度の取組) ※昨年度中間報告		
令和3年度は、感染症予防対策を図りながら、いきいき百歳体操を実施する方向で取り組んでいたが、教室によっては感染拡大により、休止しているところもある。いきいき百歳体操教室に参加できない高齢者に対し、フレイル予防対策で、自宅で安全にできる体操の紹介を行った。また、しそチャンネル、しそたん通信を活用した体操の紹介、フレイル対策のリーフレットを配布した。 今年度は、新たに1教室立ち上がった。		
(R3年度の取組最終実績) ※昨年度中間報告も含めた最終実績報告(中間報告と変更・修正なければそのままコピーで可)		
令和3年度は、感染症予防対策を図りながら、いきいき百歳体操を実施する方向で取り組んでいたが、教室によっては感染拡大により、休止しているところもある。いきいき百歳体操教室に参加できない高齢者に対し、フレイル予防対策で、自宅で安全にできる体操の紹介を行った。また、しそチャンネル、しそたん通信を活用した体操の紹介、フレイル対策のリーフレットを配布した。 今年度は、新たに1教室立ち上がった。		
Ⅱ. 課題(めざす姿と現状の差等) ※(参考) R3年度回答内容		
高齢者が身近な場所で週1回程度、気軽に集まり自主的にいきいき百歳体操をすることで、介護予防に取り組める。新型コロナウイルス感染拡大により長期間の自粛を要請した結果、再開しても参加されない方もありコロナ禍前の参加者数に戻っていない。 令和6年度までで、50人ずつの参加者数の増加と目標をあげているが、まずは、コロナ禍前の参加者数に戻したい。 そのため、何らかの理由により通いの場へ参加できなくなった方、参加できない方への支援について検討が必要である。また、立ち上げ支援や通いの場の継続支援、専門職によるミニ講座を実施する等、通いの場の充実を図る。		
(R4年度の取組) ※中間報告		
住民主体の「通いの場」に参加者同士が気軽に集まり、交流することで身体機能の維持・向上だけでなく、仲間づくりにつながっている。コロナ禍で活動の中止を余儀なくされることもあったが、徐々に戻りつつある。しそチャンネルなどの媒体を通し心身の健康保持のため情報発信を行った。 今年度は、新たに1教室立ち上がった。(令和5年2月末現在)		
Ⅱ. 課題(めざす姿と現状の差等) ※R4年度回答		
令和6年度まで、毎年50人ずつの参加者数の増加と目標をあげていたが、コロナ禍で参加者数は伸び悩む状況である。まずは、コロナ禍前の参加者数に戻したい。 何らかの理由により通いの場へ参加できなくなった方、参加できない方への支援について検討が必要である。また、立ち上げ支援や通いの場の継続支援、専門職によるミニ講座を実施する等、通いの場の充実を図る。		

第3期穴粟市地域福祉計画施策検証シート

※網掛け部分（「R3年度の取組最終実績」、「R4年度の取組(※中間報告)」、「Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等）※R4年度回答」）の3つの欄を新たに記入しております。

活動指標に対する評価等(10)

主要な施策	基本目標 2 基本施策(1)	みんなで支え合う仕組みをつくります 地域住民等が集う場・拠点づくりを進めます
活動指標	認知症カフェ設置数	
関係機関	福祉相談課	
I. 具体的な取組内容、目標の達成度等		
(活動指標) H30年度：10か所 → R6年度：増加		
(R3年度の取組) ※昨年度中間報告		
<p>認知症の人とその家族、地域の人等、認知症を支えるすべての人々が集う場として、認知症カフェを10か所設置している。地域包括支援センターは、カフェの立ち上げ支援や充実支援、カフェ参加者から相談があった場合には認知症支援等をしている。</p> <p>当市の地域課題である移動の問題に対し1か所のカフェでは、カフェの職員が送迎をしている。また、社会福祉法人の施設が、カフェへの送迎支援をし地域支援をはたしている。</p>		
(R3年度の取組最終実績) ※昨年度中間報告も含めた最終実績報告（中間報告と変更・修正なければそのままコピーで可）		
<p>認知症の人とその家族、地域の人等、認知症を支えるすべての人々が集う場として、認知症カフェを10か所設置している。地域包括支援センターは、カフェの立ち上げ支援や充実支援、カフェ参加者から相談があった場合には認知症支援等をしている。</p> <p>当市の地域課題である移動の問題に対し1か所のカフェでは、カフェの職員が送迎をしている。また、社会福祉法人の施設が、カフェへの送迎支援をし地域支援をはたしている。</p>		
Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等） ※(参考) R3年度回答内容		
<p>認知症の人とその家族、地域の人等、認知症を支えるすべての人々が集う場として、認知症カフェの設置を支援する。再開にあたっては、安心して集えるように感染予防を図る。</p>		
(R4年度の取組) ※中間報告		
<p>認知症の人とその家族、地域の人等、認知症を支えるすべての人々が集う場として、認知症カフェを11か所設置している。地域包括支援センターは、カフェの立ち上げ支援や充実支援、カフェ参加者から相談があった場合には認知症支援等をしている。</p> <p>今年度、新たに2か所オレンジカフェの立ち上げ相談があり、立ち上げ支援を行った。1か所は閉鎖された。</p>		
Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等） ※R4年度回答		
<p>認知症の人とその家族、地域の人等、認知症を支えるすべての人々が集う場として、認知症カフェの設置を支援する。</p>		

第3期穴粟市地域福祉計画施策検証シート

※網掛け部分（「R3年度の取組最終実績」、「R4年度の取組(※中間報告)」、「Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等）※R4年度回答」）の3つの欄を新たに記入しております。

活動指標に対する評価等(11)

主要な施策	基本目標 2 基本施策(1)	みんなで支え合う仕組みをつくり 地域住民等が集う場・拠点づくりを進めます
活動指標	空き家バンクの登録件数	
関係機関	住宅土地政策課	
I. 具体的な取組内容、目標の達成度等		
(活動指標) H30年度：43件/年 → R7年度：60件/年		
(R3年度の取組) ※昨年度中間報告		
R3年度における空き家バンク物件登録件数は40件程度となる見込み。		
(R3年度の取組最終実績) ※昨年度中間報告も含めた最終実績報告（中間報告と変更・修正なければそのままコピーで可）		
R3年度空き家バンク物件登録件数：46件		
Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等）※(参考) R3年度回答内容		
R3年度において、空き家バンクへの登録物件数は前年度並みに推移しているものの、市内には、まだ多くの空き家が存在していることから、引き続き、空き家所有者へ空き家バンクへの登録を促す取組等を強化していく。		
(R4年度の取組) ※中間報告		
R4年度における空き家バンク物件登録件数は50件程度となる見込み。		
Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等）※R4年度回答		
空き家バンクへの登録物件数は、徐々にではあるものの増加傾向で推移している。しかしながら、市内には、まだ多くの活用できる空き家が存在していることから、引き続き、空き家所有者へ空き家バンクへの登録を促す取組等を強化し、空き家の利活用をさらに推進していく。		

第3期穴粟市地域福祉計画施策検証シート

※網掛け部分（「R3年度の取組最終実績」、「R4年度の取組(※中間報告)」、「Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等）※R4年度回答」）の3つの欄を新たに記入しております。

活動指標に対する評価等(12)

主要な施策	基本目標 2 基本施策(2)	みんなで支え合う仕組みをつくり 地域住民主体の見守り・支え合いの 関係づくりを推進します
活動指標	穴粟市高齢者地域支え合い活動事業登録企業数	
関係機関	福祉相談課	
I. 具体的な取組内容、目標の達成度等		
(活動指標) H30年度：32事業者 → R6年度：増加		
(R3年度の取組) ※昨年度中間報告		
<p>北部Aコープの閉鎖等により、スーパーや個人商店の移動販売車による買い物支援が増加。買い物支援だけでなく、見守りにもなっており、生活の中で欠かせないものとなっている。その移動販売をされている事業者や個人に対し、穴粟市高齢者地域支え合い活動事業の内容と協定締結について周知。</p> <p>結果として協定締結には至らなかったが、事業内容には賛同いただき、通常業務の中で見守り活動を継続いただくこととした。</p> <p>今後事業協力事業者に対し、アンケート調査を行い、今後の見守り体制の構築に活用する予定としている。</p>		
(R3年度の取組最終実績) ※昨年度中間報告も含めた最終実績報告（中間報告と変更・修正なければそのままコピーで可）		
<p>北部Aコープの閉鎖等により、スーパーや個人商店の移動販売車による買い物支援が増加。買い物支援だけでなく、見守りにもなっており、生活の中で欠かせないものとなっている。その移動販売をされている事業者や個人に対し、穴粟市高齢者地域支え合い活動事業の内容と協定締結について周知した。</p> <p>結果として協定締結には至らなかったが、事業内容には賛同いただき、通常業務の中で見守り活動を継続いただくこととした。また事業協力事業者に対し、アンケート調査を行ったことで見守り状況について把握することができた。</p>		
Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等） ※(参考) R3年度回答内容		
<p>通年して事業に賛同協力いただける事業者を募り、地域の見守りネットワークの体制の構築に取組みたい。</p>		
(R4年度の取組) ※中間報告		
<p>医療関連商品を取り扱う事業所から事業に賛同いただき協定書締結に至った。</p>		
Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等） ※R4年度回答		
<p>通年して事業に賛同協力いただける事業者を募り、地域の見守りネットワークの体制の構築に取組みたい。</p>		

第3期穴粟市地域福祉計画施策検証シート

※網掛け部分（「R3年度の取組最終実績」、「R4年度の取組(※中間報告)」、「Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等）※R4年度回答」）の3つの欄を新たに記入しております。

活動指標に対する評価等(13)

主要な施策	基本目標 2 基本施策(3)	みんなで支え合う仕組みをつくります 誰もが活躍できる機会を確保します
活動指標	単位老人クラブへの活動費補助件数	
関係機関	高年福祉課	
I. 具体的な取組内容、目標の達成度等		
(活動指標) H30年度：118件 → R6年度：現状維持		
(R3年度の取組) ※昨年度中間報告		
活動費補助件数：109単位クラブ（令和3年度）		
(R3年度の取組最終実績) ※昨年度中間報告も含めた最終実績報告（中間報告と変更・修正なければそのままコピーで可）		
活動費補助件数：109単位クラブ（令和3年度）		
Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等）※(参考) R3年度回答内容		
高齢者の社会参加や生きがいづくりを図るため、老人クラブ連合会や単位老人クラブの活動の支援を行っておりますが、老人クラブの会員数の減少や役員のなり手不足等により、単位老人クラブ数については、年々減少傾向にある。		
(R4年度の取組) ※中間報告		
活動費補助件数：107単位クラブ（令和4年度）		
Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等）※R4年度回答		
高齢者の社会参加や生きがいづくりを図るため、老人クラブ連合会や単位老人クラブの活動の支援を行っているが、老人クラブの会員数の減少や役員のなり手不足等により、単位老人クラブ数については、年々減少傾向にある。また、補助メニューのうち子育て支援に寄与するものに関しては、少子化やコロナ禍による老人クラブと学校園所との交流機会の減少等により、取組みにくいという状況が続いている。		

第3期穴粟市地域福祉計画施策検証シート

※網掛け部分（「R3年度の取組最終実績」、「R4年度の取組(※中間報告)」、「Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等）※R4年度回答」）の3つの欄を新たに記入しております。

活動指標に対する評価等(14)

主要な施策	基本目標 2 基本施策(3)	みんなで支え合う仕組みをつくります 誰もが活躍できる機会を確保します
活動指標	シルバー人材センター登録者数	
関係機関	高年福祉課	
I. 具体的な取組内容、目標の達成度等		
(活動指標) H30年度：428人 → R6年度：500人		
(R3年度の取組) ※昨年度中間報告		
登録会員数：401人（令和4年1月末） 延就業者数：32,290人（令和4年1月末）		
(R3年度の取組最終実績) ※昨年度中間報告も含めた最終実績報告（中間報告と変更・修正なければそのままコピーで可）		
登録会員数：396人 延就業者数：37,547人		
Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等）※(参考) R3年度回答内容		
シルバー人材センター事業の拡大等を通じ、高齢者が地域で活躍できる取り組みを推進しておりますが、厚生年金の支給開始年齢の段階的な引き上げに伴い、企業の定年延長や再雇用制度が広がった影響もあり、登録者数は伸び悩む現状にある。		
(R4年度の取組) ※中間報告		
登録会員数：407人（令和5年1月末） 延就業者数：35,494人（令和5年1月末）		
Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等）※R4年度回答		
高齢者の方が知識や技能等を活かして、地域で活躍できるようにシルバー人材センター事業を通じて取り組んでいるところであるが、登録会員数は伸び悩んでいる。公的年金の支給年齢の引き上げの影響もあると考えるが、単発や短期の仕事ではなく長期的な仕事を望む方、また、企業の定年延長、再雇用制度が広がる社会の流れ、コロナ禍による外出控えと同様に就労も控えているなどのことも要因と考える 現状と地域の特性を考えながら取り組んでいく必要がある。		

第3期穴粟市地域福祉計画施策検証シート

※網掛け部分（「R3年度の取組最終実績」、「R4年度の取組(※中間報告)」、「Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等）※R4年度回答」）の3つの欄を新たに記入しております。

活動指標に対する評価等(15)

主要な施策	基本目標 3 基本施策(1)	適切な支援が受けられる仕組みをつくります 相談支援体制・情報提供を充実します
活動指標	ひとり親家庭からの相談件数	
関係機関	社会福祉課	
I. 具体的な取組内容、目標の達成度等		
(活動指標) H30年度：839件 → R6年度：885件		
(R3年度の取組) ※昨年度中間報告		
R3年度（R4年1月末時点）	相談回数：887回、	相談件数：146件、相談人数：52人
R2年度（R3年1月末時点）	相談回数：600回、	相談件数：127件、相談人数：44人
R元年度（R2年1月末時点）	相談回数：621回、	相談件数：150件、相談人数：47人
(R3年度の取組最終実績) ※昨年度中間報告も含めた最終実績報告（中間報告と変更・修正なければそのままコピーで可）		
R3年度最終実績	相談回数：1,098回、	相談件数：162件、相談人数：56人
R2年度最終実績	相談回数：713回、	相談件数：172件、相談人数：53人
R元年度最終実績	相談回数：710回、	相談件数：172件、相談人数：53人
Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等） ※(参考) R3年度回答内容		
<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、年々相談数が増加し、相談内容も複雑化しているため、相談業務にあたる母子父子自立支援員の確保や資質向上など、相談者が安心して相談できる体制を整えることが重要である。</p> <p>また、ひとり親家庭の抱える課題は多岐にわたり、母子保健、経済的支援、就労支援、住居の確保、子どもの教育の支援等も必要となるため、関係機関と密接な連携を図りながら状況を踏まえて適切な助言や対応を行うことが求められている。</p>		
(R4年度の取組) ※中間報告		
R4年度（R5年1月末時点）	相談回数：965回、	相談件数：184件、相談人数：62人
《前年比》	(+78回)	(+38件) (+10人)
R3年度（R4年1月末時点）	相談回数：887回、	相談件数：146件、相談人数：52人
R2年度（R3年1月末時点）	相談回数：600回、	相談件数：127件、相談人数：44人
R元年度（R2年1月末時点）	相談回数：621回、	相談件数：150件、相談人数：47人
Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等） ※R4年度回答		
<p>ひとり親からの相談だけでなく、離婚前相談が年々増加しており、相談内容も複雑化していることから相談業務にあたる母子父子自立支援員の確保や資質向上など、相談者が安心して相談できる体制を整えることが重要である。</p> <p>また、ひとり親家庭の抱える課題は多岐にわたっているが、なかでも経済的に困窮している方への支援について、現在ある制度では限界があり、自立に向けた支援について、関係機関と密接な連携を図りながらあらゆる制度や資源を把握し、適切な助言や対応を行うことが求められている。</p>		

第3期穴粟市地域福祉計画施策検証シート

※網掛け部分（「R3年度の取組最終実績」、「R4年度の取組(※中間報告)」、「Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等）※R4年度回答」）の3つの欄を新たに記入しております。

活動指標に対する評価等(16)

主要な施策	基本目標 3 基本施策(1)	適切な支援が受けられる仕組みをつくります 相談支援体制・情報提供を充実します
活動指標	基幹相談支援センターにおける相談件数	
関係機関	福祉相談課	
I. 具体的な取組内容、目標の達成度等		
(活動指標) H30年度：2,916件 → R6年度：3,353件		
(R3年度の取組) ※昨年度中間報告		
昨年度から、障害福祉課から所管がかわり福祉相談課において基幹相談支援センターの業務を実施。保健師等の専門職を配置し、障害福祉課と連携を図ることで相談体制の強化を図っている。R3年度相談件数（見込み）は3001件で、昨年度より増加している。今後も、関係機関との連携を図りながら体制強化を図りたい。		
(R3年度の取組最終実績) ※昨年度中間報告も含めた最終実績報告（中間報告と変更・修正なければそのままコピーで可）		
昨年度から、障害福祉課から所管がかわり福祉相談課において基幹相談支援センターの業務を実施。保健師等の専門職を配置し、障害福祉課と連携を図ることで相談体制の強化を図っている。R3年度相談件数は2,963件であった。今後も、相談窓口の周知や関係機関と連携を図りながら体制強化を図りたい。		
Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等） ※(参考) R3年度回答内容		
他機関や他部署を介した相談と合わせて、直接の相談も増えている。相談窓口の周知がすすむことで相談件数が増加していると思われるが、さらに周知を行うことで市民にわかりやすい相談窓口にしていきたい。		
(R4年度の取組) ※中間報告		
保健師等の専門職を配置し、障害福祉課と連携を図ることで相談体制の強化を図っている。また、医療機関や相談支援事業所等の関係機関とも連携して支援した。		
Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等） ※R4年度回答		
直接の相談も増えているが、他部署を介して対応することも多く、窓口の周知が不十分であると思われる。今後も周知を行うことで、市民に分かりやすく相談しやすい相談窓口にしていきたい。また、障害福祉課をはじめ関係機関との連携を深めることで、機能の充実を図っていきたい。		

第3期穴粟市地域福祉計画施策検証シート

※網掛け部分（「R3年度の取組最終実績」、「R4年度の取組(※中間報告)」、「Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等）※R4年度回答」）の3つの欄を新たに記入しております。

活動指標に対する評価等(17)

主要な施策	基本目標 3 基本施策(1)	適切な支援が受けられる枠組みをつくります 相談支援体制・情報提供を充実します
活動指標	生活困窮者からの自立相談件数	
関係機関	社会福祉課	
I. 具体的な取組内容、目標の達成度等		
(活動指標) H30年度：87件 → R6年度：120件		
(R3年度の取組) ※昨年度中間報告		
生活困窮者自立相談支援事業として、相談支援員2名及び就労支援員1名を配置し、生活困窮からの脱却をはかるため相談支援、プラン作成等を行った。また、総合的な仕事の相談窓口事業（商工観光課：委託事業）と連携し、自立相談支援から就労までの一体的な支援を実施した。 1月末現在の相談実績：直営96人、委託14人、計110人		
(R3年度の取組最終実績) ※昨年度中間報告も含めた最終実績報告（中間報告と変更・修正なければそのままコピーで可）		
生活困窮者自立相談支援事業として、相談支援員2名及び就労支援員1名を配置し、生活困窮からの脱却をはかるため相談支援、プラン作成等を行った。また、総合的な仕事の相談窓口事業（商工観光課：委託事業）と連携し、自立相談支援から就労までの一体的な支援を実施した。 R3年度相談実績：直営111人、委託16人、計127人		
Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等） ※(参考) R3年度回答内容		
件数の増加が必ずしもよい訳ではないが、生活困窮者の早期発見、掘り起しにつながっているものと思われる。		
(R4年度の取組) ※中間報告		
生活困窮者自立相談支援事業として、相談支援員2名及び就労支援員1名を配置し、生活困窮からの脱却をはかるため相談支援、プラン作成等を行った。また、総合的な仕事の相談窓口事業（商工観光課：委託事業）と連携し、自立相談支援から就労までの一体的な支援を実施した。 1月末時点での相談実績：直営68人、委託20人、計88人		
Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等） ※R4年度回答		
新型コロナウイルス感染症に係る特例貸付が終了や国等の給付金事業が終了したことに伴い、生活保護の相談につながるケースが増えている。		

第3期穴粟市地域福祉計画施策検証シート

※網掛け部分（「R3年度の取組最終実績」、「R4年度の取組(※中間報告)」、「Ⅱ. 課題(めざす姿と現状の差等)※R4年度回答」)の3つの欄を新たに記入しております。

活動指標に対する評価等(18)

主要な施策	基本目標 3 基本施策(1)	適切な支援が受けられる枠組みをつくります 相談支援体制・情報提供を充実します
活動指標	認知症にかかる相談件数	
関係機関	福祉相談課	
I. 具体的な取組内容、目標の達成度等		
(活動指標) H30年度：735件 → R6年度：1,000件		
(R3年度の取組) ※昨年度中間報告		
<p>R3年度見込み相談件数：1,000件 市民や関係機関からの相談時やいきいき百歳体操の教室等、いろいろな機会に認知症の相談を受けた。 令和2年度より、市の健診と合わせ70歳～74歳の方を対象に兵庫県版認知症チェックシートを活用し認知症予防健診を1,321人に実施し認知機能の低下や社会生活に支障が出ている可能性が高い方に対し訪問により本人の心身状態を確認し、認知機能低下が考えられる方については、認知症初期集中支援チームによる認知症の早期発見、早期対応につなげた。</p>		
(R3年度の取組最終実績) ※昨年度中間報告も含めた最終実績報告(中間報告と変更・修正なければそのままコピーで可)		
<p>R3年度見込み相談件数：1,229件 市民や関係機関からの相談時やいきいき百歳体操の教室等、いろいろな機会に認知症の相談を受けた。 令和2年度より、市の健診と合わせ70歳～74歳の方を対象に兵庫県版認知症チェックシートを活用し認知症予防健診を1,321人に実施し認知機能の低下や社会生活に支障が出ている可能性が高い方に対し訪問により本人の心身状態を確認し、認知機能低下が考えられる方については、認知症初期集中支援チームによる認知症の早期発見、早期対応につなげた。</p>		
Ⅱ. 課題(めざす姿と現状の差等) ※(参考) R3年度回答内容		
<p>認知症の早期発見、早期支援の為に、今後も市の健診と合わせ70歳～74歳の方を対象に兵庫県版認知症チェックシートを活用した認知症予防健診を実施し認知機能の低下や社会生活に支障が出ている可能性が高い方に対し訪問により本人の心身状態を確認し、認知機能低下が考えられる方については、認知症初期集中支援チームによる認知症の早期発見、早期対応につなげる。また、健診会場のみでなく、訪問や来所相談、介護予防教室等の機会を活用し兵庫県版認知症チェックシートを実施することで、健診受診者以外の方で認知機能の低下や社会生活に支障が出ている可能性が高い方を早期に把握し、必要な支援につなげていく。 若年性認知症の方への支援についての検討や介護者支援が不十分であり検討の必要がある。</p>		
(R4年度の取組) ※中間報告		
<p>R4年度見込み相談件数：1,200件 市民や関係機関からの相談時やいきいき百歳体操の教室等、いろいろな機会に認知症の相談を受けた。 市の健診と合わせ70歳～74歳の方を対象に認知症予防健診を1,359人実施し、認知機能の低下や社会生活に支障が出ている可能性が高い方に対し訪問により本人の心身状態を確認し、認知機能低下が考えられる方については、認知症初期集中支援チームによる認知症の早期発見、早期対応につなげた。</p>		
Ⅱ. 課題(めざす姿と現状の差等) ※R4年度回答		
<p>認知症の早期発見、早期支援の為に、今後も市の健診と合わせ70歳～74歳の方を対象に認知症予防健診を実施し認知機能の低下や社会生活に支障が出ている可能性が高い方に対し訪問により本人の心身状態を確認し、認知機能低下が考えられる方については、認知症初期集中支援チームによる認知症の早期発見、早期対応につなげる。また、健診会場のみでなく、訪問や来所相談、介護予防教室等の機会を活用し兵庫県版認知症チェックシートを実施することで、健診受診者以外の方で認知機能の低下や社会生活に支障が出ている可能性が高い方を早期に把握し、必要な支援につなげていく。 今年度は、若年性認知症の理解のため、若年性認知症本人の方の写真展と講演会を行った。介護者支援として、認知症の介護経験のある家族のつどいを開催した。今後も、若年性認知症の方への支援についての検討や介護者支援の充実に向けて検討の必要がある。</p>		

第3期穴粟市地域福祉計画施策検証シート

※網掛け部分（「R3年度の取組最終実績」、「R4年度の取組(※中間報告)」、「Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等）※R4年度回答」）の3つの欄を新たに記入しております。

活動指標に対する評価等(19)

主要な施策	基本目標 3 基本施策(1)	適切な支援が受けられる枠組みをつくります 相談支援体制・情報提供を充実します
活動指標	ふくし総合相談窓口の設置	
関係機関	健康福祉部	
I. 具体的な取組内容、目標の達成度等		
(活動指標) H30年度：未設置 → R6年度：設置		
(R3年度の取組) ※昨年度中間報告		
ひきこもり対策の充実と福祉の初期の相談に迅速に対応するための総合相談窓口とし、令和2年4月に福祉相談課を設置し2年目を迎えた。 地域包括支援係（地域包括支援センター）と相談支援係（ひきこもり担当窓口、基幹相談支援センター）が連携しながら、高齢者や障がいのある方に対し支援している。		
(R3年度の取組最終実績) ※昨年度中間報告も含めた最終実績報告（中間報告と変更・修正なければそのままコピーで可）		
ひきこもり対策の充実と福祉の初期の相談に迅速に対応するための総合相談窓口とし、令和2年4月に福祉相談課を設置し2年目を迎えた。 地域包括支援係（地域包括支援センター）と相談支援係（ひきこもり担当窓口、基幹相談支援センター）が連携しながら、高齢者や障がいのある方に対し支援している。		
Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等） ※(参考) R3年度回答内容		
高齢者のみ世帯、身寄りのない方、介護を必要とする方、障がいのある方、ひきこもりの方の世帯、老々介護（高齢者が高齢者を介護）、認知介護（認知症の方が認知症の方を介護）などの方が、相談しやすいように相談窓口を充実し、関係機関と連携しながら支援ができる体制を充実させる。		
(R4年度の取組) ※中間報告		
福祉相談課内に地域包括支援係（地域包括支援センター）と相談支援係（基幹型相談支援センター）を設置し相談窓口を充実している。相談内容により、社会福祉課や障害福祉課、高年福祉課、保健福祉課等、健康福祉部内で連携しながら支援している。		
Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等） ※R4年度回答		
高齢者のみ世帯、身寄りのない方、介護を必要とする方、障がいのある方、ひきこもりの方の世帯、老々介護（高齢者が高齢者を介護）、認知介護（認知症の方が認知症の方を介護）などの方が、相談しやすいように相談窓口を充実し、関係機関と連携しながら支援ができる体制を充実させる。		

第3期穴粟市地域福祉計画施策検証シート

※網掛け部分（「R3年度の取組最終実績」、「R4年度の取組(※中間報告)」、「Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等）※R4年度回答」）の3つの欄を新たに記入しております。

活動指標に対する評価等(20)

主要な施策	基本目標 3 基本施策(2)	適切な支援が受けられる枠組みをつくります 課題解決に向けた多様な主体のつながりを構築・強化します
活動指標	地域ケア個別会議開催数	
関係機関	福祉相談課	
I. 具体的な取組内容、目標の達成度等		
(活動指標) H30年度：19回 → R6年度：30回		
(R3年度の取組) ※昨年度中間報告		
令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止により、集まり事例を検討する事を控えた事で開催回数が減少し、自立支援サポート会議が6回の開催となったが、今年度は感染対策を行いながら、月1回開催することができた。 軽度者の自立支援を目的とした、自立支援サポート会議（軽度者の自立に向けた支援検討）： 10回（令和4年1月末現在） 処遇困難ケースの検討を目的とした、地域ケア個別会議（処遇困難ケース等の検討）：11回開催		
(R3年度の取組最終実績) ※昨年度中間報告も含めた最終実績報告（中間報告と変更・修正なければそのままコピーで可）		
令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止により、集まり事例を検討する事を控えた事で開催回数が減少し、自立支援サポート会議が6回の開催となったが、今年度は感染対策を行いながら、月1回開催することができた。 軽度者の自立支援を目的とした、自立支援サポート会議（軽度者の自立に向けた支援検討）： 12回開催（33ケース） 処遇困難ケースの検討を目的とした、地域ケア個別会議（処遇困難ケース等の検討）： 11回開催（11ケース）		
Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等） ※(参考) R3年度回答内容		
多重問題世帯や処遇困難ケースが増える中、介護支援専門員や介護保険サービス事業所、地域包括支援センターのみではなく、民生委員児童委員、福祉委員、自主防災組織等、地域を巻き込むことで住み慣れた地域で安心して生活ができるよう地域ケア個別会議にて検討しているが、1回の会議開催のみでなく、必要な方に対しては継続的な検討が必要である。 軽度者のケースに対しては、保健師、社会福祉士、薬剤師、管理栄養士、歯科衛生士、セラピスト、主任介護支援専門員等が集まり、それぞれ専門職としての視点より自立支援につながるように検討しているが、その後の振り返りをする中で必要な方については自立支援の方向性を再検討する。		
(R4年度の取組) ※中間報告		
軽度者の自立支援を目的とした、自立支援サポート会議（軽度者の自立に向けた支援検討）：11回開催（29ケース）（令和5年2月末現在） 処遇困難ケースの検討を目的とした、地域ケア個別会議（処遇困難ケース等の検討）：8回開催（9ケース）		
Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等） ※R4年度回答		
多重問題世帯や処遇困難ケースが増える中、介護支援専門員や介護保険サービス事業所、地域包括支援センターのみではなく、民生委員児童委員、福祉委員、自主防災組織等、地域を巻き込むことで住み慣れた地域で安心して生活ができるよう地域ケア個別会議にて検討しているが、1回の会議開催のみでなく、必要な方に対しては継続的な検討が必要である。 軽度者のケースに対しては、保健師、社会福祉士、薬剤師、管理栄養士、歯科衛生士、セラピスト、主任介護支援専門員、生活支援コーディネーターが集まり、それぞれ専門職としての視点より自立支援につながるように検討しているが、その後の振り返りをする中で必要な方については自立支援の方向性を再検討する。また、地域ケア個別会議を通じ地域課題について検討し、地域ケア推進会議で施策形成等の検討をしていく。今年度は、地域の社会資源等を把握している生活支援コーディネーターを新たにメンバーに加え地域力も含め検討している。		

第3期穴粟市地域福祉計画施策検証シート

※網掛け部分（「R3年度の取組最終実績」、「R4年度の取組(※中間報告)」、「Ⅱ. 課題(めざす姿と現状の差等)※R4年度回答」)の3つの欄を新たに記入しております。

活動指標に対する評価等(21)

主要な施策	基本目標 3 基本施策(3)	適切な支援が受けられる枠組みをつくります 権利擁護等の取り組みを推進します
活動指標	成年後見制度に関する相談件数(延べ数)	
関係機関	福祉相談課	
I. 具体的な取組内容、目標の達成度等		
(活動指標) H30年度: 11件 → R6年度: 22件		
(R3年度の取組) ※昨年度中間報告		
成年後見制度利用促進研修会を介護支援専門員や福祉専門職向けに開催し、制度が必要な方への支援体制を図る取組を行った。また、日々の相談の中で、成年後見制度の利用支援が必要な方には個別に訪問し制度への繋ぎや説明を行った。		
(R3年度の取組最終実績) ※昨年度中間報告も含めた最終実績報告(中間報告と変更・修正なければそのままコピーで可)		
成年後見制度利用促進研修会を介護支援専門員や福祉専門職向けに開催し、制度が必要な方への支援体制を図る取組を行った。また、日々の相談の中で、成年後見制度の利用支援が必要な方には個別に訪問し制度への繋ぎや説明を行った。 ≪相談実績: 28件(うち高齢者27件、障害者1件)≫		
Ⅱ. 課題(めざす姿と現状の差等) ※(参考) R3年度回答内容		
身寄りのない方で支援が必要なケースが増える中、支援が必要になってから関係者が集まり検討するのではなく、元気な間から権利擁護等について説明し必要な方には、任意後見制度等の利用等についてすすめていくことが必要である。		
(R4年度の取組) ※中間報告		
成年後見制度利用促進研修会を介護支援専門員や福祉専門職向けに開催し、制度が必要な方への支援体制を図る取組を行った。また、日々の相談の中で、成年後見制度の利用支援が必要な方には個別に訪問し制度への繋ぎや説明を行った。		
Ⅱ. 課題(めざす姿と現状の差等) ※R4年度回答		
権利擁護・成年後見制度に関する相談は、ケアマネジャーや医療機関からの相談割合が高い一方で、支援する者が成年後見制度に関する知識がなかったり、相談するタイミングや相談先を知らないなど、支援者に対しての周知が必要である。		

第3期穴粟市地域福祉計画施策検証シート

※網掛け部分（「R3年度の取組最終実績」、「R4年度の取組(※中間報告)」、「Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等）※R4年度回答」）の3つの欄を新たに記入しております。

活動指標に対する評価等(22)

主要な施策	基本目標 3 基本施策(3)	適切な支援が受けられる枠組みをつくります 権利擁護等の取り組みを推進します
活動指標	市民後見人候補者数	
関係機関	福祉相談課	
I. 具体的な取組内容、目標の達成度等		
(活動指標) H30年度：4人 → R6年度：8人		
(R3年度の取組) ※昨年度中間報告		
西播磨成年後見支援センターに委託して、毎年市民後見人養成講座を開催。 基礎研修、実践活動研修、フォローアップ研修のすべてを修了したのは9名。 令和4年1月末現在、市民後見人バンク登録者数は53名となっている。今年度養成研修全課程修了者のうち新たに3名がバンク登録申込みをされている。		
(R3年度の取組最終実績) ※昨年度中間報告も含めた最終実績報告（中間報告と変更・修正なければそのままコピーで可）		
西播磨成年後見支援センターに委託して、毎年市民後見人養成講座を開催。 基礎研修、実践活動研修、フォローアップ研修のすべてを修了したのは9名。 令和4年1月末現在、市民後見人バンク登録者数は53名となっている。今年度養成研修全課程修了者のうち新たに3名がバンク登録申込みをされている。		
Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等） ※(参考) R3年度回答内容		
現在、西播磨成年後見支援センターへ委託して広域で養成講座の実施と市民後見人の活動のための支援を行っている。修了者のうち登録される方の人数は少なく、実際後見業務を行っている方も数える程度であり、今後市民後見人が活動していくうえでの課題などを整理していく必要がある。		
(R4年度の取組) ※中間報告		
西播磨成年後見支援センターに委託し、市民後見人養成講座を開催した。 基礎研修、実践活動研修、フォローアップ研修のすべてを終了したのは7名（うち穴粟市は4名）。 令和5年1月末現在、市民後見人バンク登録者数は51名（うち穴粟市は6名）となっており、今年度養成研修全課程終了者のうち新たに4名がバンク登録される見込みとなっている。		
Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等） ※R4年度回答		
現在、市に後見人等候補者の受任を調整する機能がなく、市民後見人の柔軟な活動（専門職後見人との複数後見や専門職後見からのリレー受任等）が検討できておらず、市民後見人が受任する事例がない状態となっており、市に受任調整機能が必要である。		

第3期穴粟市地域福祉計画施策検証シート

※網掛け部分（「R3年度の取組最終実績」、「R4年度の取組(※中間報告)」、「Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等）※R4年度回答」）の3つの欄を新たに記入しております。

活動指標に対する評価等(23)

主要な施策	基本目標 3 基本施策(4)	適切な支援が受けられる枠組みをつくります 支援を必要とする人への取り組みを推進します
活動指標	専門職及び市民向けゲートキーパー研修の開催回数（延べ数）	
関係機関	保健福祉課	
I. 具体的な取組内容、目標の達成度等		
(活動指標) H30年度：0回 → R6年度：5回		
(R3年度の取組) ※昨年度中間報告		
ゲートキーパー研修(民生委員・児童医院) 2回：95人 ゲートキーパー研修(支援者) 1回：21人 ゲートキーパー研修(職員) 1回：42人		
(R3年度の取組最終実績) ※昨年度中間報告も含めた最終実績報告（中間報告と変更・修正なければそのままコピーで可）		
ゲートキーパー研修(民生委員児童委員) 2回：95人 ゲートキーパー研修(支援者) 1回：21人 ゲートキーパー研修(職員) 1回：42人		
Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等）※(参考) R3年度回答内容		
穴粟市の自殺率は高く、平成30年～令和2年の市町別自殺率は25.6で県下でも非常に高い状況である。自殺者のうち、60歳以上の割合が6割を占めており、高齢者の自殺者も多い状況である。ケアマネジャーや相談員などの介護福祉職員の支援者がゲートキーパー研修を受講することで、自殺の危険性が高い人の早期発見、早期対応をはかり、自殺を未然に防ぐ。		
(R4年度の取組) ※中間報告		
ゲートキーパー研修(民生委員児童委員、協力員) 99人 ゲートキーパー研修(職員) 24人		
Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等）※R4年度回答		
穴粟市の自殺率は高い状況が続いており、特に高齢者（60歳以上）の割合が6割を占めている。ケアマネジャーや相談支援専門員、介護福祉職の支援者がゲートキーパー研修を受講することで、自殺の危険性が高い人の早期発見、早期対応を図り、自殺を未然に防ぐ体制を構築したい。		

第3期穴粟市地域福祉計画施策検証シート

※網掛け部分（「R3年度の取組最終実績」、「R4年度の取組(※中間報告)」、「Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等）※R4年度回答」）の3つの欄を新たに記入しております。

活動指標に対する評価等(24)

主要な施策	基本目標 3 基本施策(4)	適切な支援が受けられる枠組みをつくります 支援を必要とする人への取り組みを推進します
活動指標	生活困窮者等への就労支援人数	
関係機関	社会福祉課	
I. 具体的な取組内容、目標の達成度等		
(活動指標) H30年度：43人 → R6年度：60人		
(R3年度の取組) ※昨年度中間報告		
日常生活習慣の改善、就労に向けた技法習得などを支援する「就労準備支援」と、求人情報の提供や個別相談、就職後の職場定着支援などを行う「就労支援」を委託により実施した。 1月末現在実績：就労準備支援10人(内就労活動につながった者3人)、就労支援14人(内就労に結びついた者11人)		
(R3年度の取組最終実績) ※昨年度中間報告も含めた最終実績報告（中間報告と変更・修正なければそのままコピーで可）		
日常生活習慣の改善、就労に向けた技法習得などを支援する「就労準備支援」と、求人情報の提供や個別相談、就職後の職場定着支援などを行う「就労支援」を委託により実施した。 R3年度実績：就労準備支援16人(内就労活動につながった者4人)、就労支援34人(内就労に結びついた者22人)		
Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等）※(参考) R3年度回答内容		
件数の多い少ないで全てを判断することは難しいが、就労支援における国が示す目標数値（就職率75%）の達成に向けて、引き続き支援を必要とする人の個々のケースに応じた支援を行う。		
(R4年度の取組) ※中間報告		
日常生活習慣の改善、就労に向けた技法習得などを支援する「就労準備支援」と、求人情報の提供や個別相談、就職後の職場定着支援などを行う「就労支援」を委託により実施した。 1月末現在実績：就労準備支援10人(内就労活動につながった者2人)、就労支援24人(内就労に結びついた者17人)		
Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等）※R4年度回答		
就労支援事業については、R3実績では約65%、R41月末実績では約71%と目標値には到達していないものの、少しずつではあるが支援の成果が結果となっている。就労準備支援事業については、令和3年度と変わらず横ばい傾向となっている。就労について個々が抱える課題や問題は様々であるため、個人の特性が異に応じた支援が求められる。		

第3期穴粟市地域福祉計画施策検証シート

※網掛け部分（「R3年度の取組最終実績」、「R4年度の取組(※中間報告)」、「Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等）※R4年度回答」）の3つの欄を新たに記入しております。

活動指標に対する評価等(25)

主要な施策	基本目標 4 基本施策(1)	安全で安心な地域をつくります 地域の防災力を高める取り組みを推進します
活動指標	福祉避難所の協定数	
関係機関	危機管理課	
I. 具体的な取組内容、目標の達成度等		
(活動指標) H30年度：15か所 → R6年度：増加		
(R3年度の取組) ※昨年度中間報告 新たな「災害時における福祉避難所の開設等に関する協定」の締結には至らなかった。		
(R3年度の取組最終実績) ※昨年度中間報告も含めた最終実績報告（中間報告と変更・修正なければそのままコピーで可） 新たな「災害時における福祉避難所の開設等に関する協定」の締結には至らなかった。		
Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等） ※(参考) R3年度回答内容 地域でまんべんなく福祉避難所を開設できるよう事業者への説明を行い協定締結に向けて働きかける必要がある。		
(R4年度の取組) ※中間報告 新たな「災害時における福祉避難所の開設等に関する協定」の締結には至らなかったが、福祉避難所開設を担当する健康福祉部が、協定福祉避難所である福祉施設に対して福祉避難所開設・運営マニュアルを用いて説明を行い、連携強化のための認識の統一を図った。		
Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等） ※R4年度回答 地域でまんべんなく福祉避難所を開設できるよう事業者への説明を行い協定締結に向けて働きかける必要があるとともに、実際に避難者を受け入れるための避難訓練なども行う必要がある。		

第3期穴粟市地域福祉計画施策検証シート

※網掛け部分（「R3年度の取組最終実績」、「R4年度の取組(※中間報告)」、「Ⅱ. 課題(めざす姿と現状の差等)※R4年度回答」)の3つの欄を新たに記入しております。

活動指標に対する評価等(26)

主要な施策	基本目標 4 基本施策(2)	安全で安心な地域をつくります すべての人にやさしい地域をつくります
活動指標	公共交通の利用者数(路線バス利用者数)	
関係機関	まちづくり推進課	
I. 具体的な取組内容、目標の達成度等		
(活動指標) H30年度: 276,838人 → R6年度: 262,080人		
(R3年度の取組) ※昨年度中間報告		
市民生活に必要な不可欠なバス路線を維持するため、バス運行事業者が要する運行経費の一部について補助を行った。 ・市外連絡路線(大型バス路線)4路線、市内完結路線(小型バス路線)24路線、山崎待合所周辺を循環するバス路線の運行補助、広域路線(姫路、ダイセル線等)5路線 ・路線バス利用実績 225,865人		
(R3年度の取組最終実績) ※昨年度中間報告も含めた最終実績報告(中間報告と変更・修正なければそのままコピーで可)		
市民生活に必要な不可欠なバス路線を維持するため、バス運行事業者が要する運行経費の一部について補助を行った。 ・市外連絡路線(大型バス路線)4路線、市内完結路線(小型バス路線)24路線、山崎待合所周辺を循環するバス路線の運行補助、広域路線(姫路、ダイセル線等)5路線 ・路線バス利用実績 225,865人		
Ⅱ. 課題(めざす姿と現状の差等) ※(参考) R3年度回答内容		
R3年度も新型コロナウイルス感染症の影響により前年度の利用者数を下回った。引き続き利便性の向上に取り組み、利用促進を図るとともに、利用が少ない路線については、路線バスではなく、別の手法により移動手段を確保していくことも検討する必要がある。		
(R4年度の取組) ※中間報告		
市民生活に必要な不可欠なバス路線を維持するため、バス運行事業者が要する運行経費の一部について補助を行った。 ・市外連絡路線(大型バス路線)4路線、市内完結路線(小型バス路線)24路線、山崎待合所周辺を循環するバス路線の運行補助、広域路線(姫路、ダイセル線等)5路線 ・路線バス利用実績 226,031人		
Ⅱ. 課題(めざす姿と現状の差等) ※R4年度回答		
R4年度の利用者数は前年度より増加となった。引き続き利便性の向上に取り組み、利用促進を図っていく。また、利用が少ない路線についての代替交通手段として、R4年10月より一宮町繁盛・三方地区において、地域が主体となり地域住民による互助交通の実証実験を開始した。今後、当該互助交通について自家用有償旅客運送の登録を行った上で本格運行するとともに、他の利用が少ない路線についても地域に合った形で、持続可能な代替交通手段を検討していく。		

第3期穴粟市地域福祉計画施策検証シート

※網掛け部分（「R3年度の取組最終実績」、「R4年度の取組(※中間報告)」、「Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等）※R4年度回答」）の3つの欄を新たに記入しております。

活動指標に対する評価等(27)

主要な施策	基本目標 4 基本施策(2)	安全で安心な地域をつくります すべての人にやさしい地域をつくります
活動指標	登録手話通訳者数	
関係機関	障害福祉課	
I. 具体的な取組内容、目標の達成度等		
(活動指標) H30年度：16人 → R6年度：20人		
(R3年度の取組) ※昨年度中間報告		
手話奉仕員養成講座（入門編）	20回開催	修了者数 11人（受講者数 13人）
手話奉仕員養成講座（基礎編）	22回開催	修了者数 3人（受講者数 3人）
(R3年度の取組最終実績) ※昨年度中間報告も含めた最終実績報告（中間報告と変更・修正なければそのままコピーで可）		
手話奉仕員養成講座（入門編）	20回開催	修了者数 11人（受講者数 13人）
手話奉仕員養成講座（基礎編）	22回開催	修了者数 3人（受講者数 3人）
Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等） ※(参考) R3年度回答内容		
手話奉仕員養成講座が入門編と基礎編の2年で修了となるが、途中受講辞退者がでるため、登録者数の増加につながらない。		
(R4年度の取組) ※中間報告		
手話奉仕員養成講座（入門編）	20回開催	修了者数 5人（受講者数 10人）
手話奉仕員養成講座（基礎編）	22回開催	修了者数 5人（受講者数 5人）
Ⅱ. 課題（めざす姿と現状の差等） ※R4年度回答		
手話奉仕員養成講座（入門編と基礎編）を2年コースで実施するだけでは登録者数の増加には繋がらない。その対策としてレベルアップ講座や試験対策の講座を実施している。		